

平成30年度 第2回小牧市児童館運営委員会会議録

日時	平成31年2月14日木曜日 14時00分～15時30分	
場所	まなび創造館 多目的室1	
参加者	運営委員	永井勝彦、丹羽三枝子、来治英治、増田直美、小島恵子、伊藤恵子、中川裕子、児島綾乃、東谷昌子
	事務局	こども未来部長、こども未来部次長、こども政策課主幹、こども政策課主幹（指導保育士）、こども政策課係長、こども政策課児童館担当、児童センター兼子育て世代包括支援センター長、味岡児童館館長、篠岡児童館館長、小牧児童館館長、小牧南児童館館長、北里児童館館長、西部児童館館長、大城児童館館長
欠席者	運営委員	沖本喜久江
傍聴人	なし	
司会（こども政策課主幹）	委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、平成30年度第2回小牧市児童館運営委員会を開催させていただきます。この会議は公開となっておりますが、本日傍聴者はおみえになりません。それでは、はじめに、こども未来部長の鍛冶屋よりご挨拶を申し上げます。	
こども未来部長	<p>本日はご多忙のところ、第2回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、連日報道されていますが、野田市の児童虐待事件をはじめ、いじめや児童が巻き込まれる事件・事故等、こどもを取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。こうした中、学校へは行けないけれども児童館なら大丈夫という声を聞いたり、子育て支援室への相談の内容をお聞きしたりしていますと、地域の中で児童館の役割は非常に大きいものがあると感じています。</p> <p>本日は、来年度の活動方針や行事計画について議題にあがっております。児童館における活動、求められる役割について、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願います。</p>	
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、永井委員長よりご挨拶を頂きたいと思います。</p>	
委員長	<p>今年度2回目の委員会ということで、本日は平成30年度の各児童館の活動をお聞きし、その後、来年度の方針についてのご意見をいただく場となります。ぜひ、忌憚のないご意見をよろしく願います。</p>	
司会	<p>それでは、早速、次第に従いまして報告事項から始めさせていただきます。</p> <p>(1) 平成30年度児童館の現状報告について</p> <p>(2) 平成30年度児童館・子育て支援室利用状況について</p> <p>を一括で報告させていただきます。最初に、児童館の現状報告から順に行います。</p>	

センター長

(資料1)

平成30年9月1日にラピオ内に移転した児童センターと子育て支援室です。移転前の状況を資料でご確認いただきながら、今回は移転後の変化、現状を報告させていただきます。

児童センターは、移転前は子育て広場として乳幼児の親子が対象の遊び場だったこともあり、そのイメージのまま、現在も乳幼児の利用者が中心です。乳幼児の親子が多いと、中高生は入りにくいと感じるところがあります。また、ラピオ商業施設の中にあることから、小学生以上は一人で利用できますが、実際は年齢問わず、親子で利用するといった特徴があります。また、駐車場が3時間まで無料ということで、短時間の滞在が多いです。遊ぶ姿は買い物帰りに寄って、子どもを遊ばせ、親はその間休息する、といったフリースペース的な活用が見られます。リピーターが多かった移転前より、移転後は新規の利用者が多いです。近隣の小規模保育園や、公立保育園、児童デイサービスやフリースクールなどの利用があり、児童センターの良さを知っていることを嬉しく感じています。開放的な空間ではありますが、移転前と変わらず、不登校な子どもなども足を運んで来てくれるので、移転後もなお、「安心できる場」として児童センターがあるのだと感じています。

移転して5か月が過ぎます。まだまだ課題は多いですが、今後も引き続き、どの子にとっても、安心できて、居心地の良い場となるような環境を作っていきながら、「来てよかった。また来たい」と思ってもらえるような児童センターにしていきたいと思っています

次に子育て支援室についての変化です。移転後は平日の午前中に利用者が集中しています。また、土日はパパと子どもでの利用、あるいは家族での利用者が中心になることも特徴です。移転後は広いスペースを0歳児～1歳前後までのフロアと1歳前後～未就園までのフロアと二つに区切ってあることで「安心して過ごせる」との声をいただいています。逆に、移転当初はあまりのスペースの広さに、それまで感じていた、職員への話しやすさ、相談のしやすさが薄れてしまった、などの声がありましたが、現在は相談件数も増えていることから、移転前と同様に温かい雰囲気の良いさが出てきていると感じています。地域子育て支援拠点である子育て支援室は、子育て家庭の困り感が小さい段階から関わり、虐待や育児放棄、DVなどの早期の予防となるように努めていきたいと思っています。また、子育て世代包括支援センター内に位置することで、妊娠期から子育て期にわたり切れ目ない支援という役割を持っていますので、相談内容も移転前に比べ多種多様になりました。専門職としてスキルを磨くことの必要性や、包括の中にいる、母子保健や家庭児童相談員との連携の充実、他の関係機関との連携・協力関係を築いておき、切れ目ない支援の実現や、支援の体制を整えていくことを大切にしたいと思っています。

味岡児童館長

味岡児童館は①～⑤に記してあるように5つの理念に基づき、平成30年度も「地域の輪、友達の輪をひろげよう」を目標に掲げ活動を行ってきました。職員、子どもたち、活動を支えてくださるサポーターの皆さんなど、児童館を中心に集う人同士の「つながり」を大切に運営しています。

平成31年1月には地域の皆さんの協力・支援のもと、開館6周年を迎えることができました。その周年記念祝いや夏の「サマーフェスティバル」等の行事に加え、日頃の工作や子どもたちの遊びのレクチャーなど、サポーターの方々と連携をとり、かまどを使った調理活動にもご協力をいただいて、「地域ぐるみで育つ児童館」として、運営を行っております。

今年度も味岡児童館は赤ちゃん連れの親子から高校生、祖父母まで多世代に渡り多くの方々に利用していただいております。なかでも幼児親子の利用は多く、子育て支援として開催しているリトミックなど、各講座やクラブ活動等は年間を通して行っています。継続して参加する中でこどもの成長を実感し、喜びを感じるという声が聞かれます。好評を頂いている英語の講座は、今年度より家庭でも楽しめるよう、英語の絵本を題材にママ支援として取り組みました。パパや祖父母との来館も増え、父子で講座に参加する姿も見受けられます。近年、子育て世代を取り巻く環境も変わり始め、赤ちゃんとのかわりに不安を感じるママもいます。「多世代で育ち合う子育て支援」の場として、子育て支援員を中心に頼れる場であるよう心がけています。

味岡児童館は中高生利用が、時に小学生よりも上回ることがあります。中高生は学習目的の来館が多いので、「集い使える児童館」として利用目的の一つとなるよう、夏休みに「ギター教室」を開催しました。また、小学生についても宿題など勉強に励む様子が増えていますが、地域柄、外国籍の子どもたちも多いため、交流や他を知ることも含めて遊びの幅を増やそうと、「インターナショナル遊び」で外国の遊びを紹介することで、「多文化共生できる」児童館を目指しました。また、かまどを使う体験など、味岡ならではの特色のある企画をし、子どもたちに提供する機会を持ちました。

今後とも、来館された方が笑顔で帰っていかれるような児童館運営を心がけたいと思います。

篠岡児童館長

平成30年度の篠岡児童館の現状報告をさせていただきます。「児童館で遊ぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」をテーマとして、平成23年より5つの理念をもとに運営しています。

今年度も5月の児童館まつり、8月の夏祭り肝だめし、2月のおもちつきなどの大きなイベントでは、地域のおやじの会の協力や、地域サポーターによるコーナーのお手伝い、中学生ボランティアの活躍があり、地域ぐるみで育ち合う児童館の実現がなされました。

また、多世代で育ち合う子育て支援として、今年度新たな英語講座「イングリッシュシャワー」を開講しました。女性の講師が親子の緊張を上手にほぐしながら、日常で使える英語表現を音楽や動きと一緒に教えてくれ、「とても楽しかったので」と毎月申し込んでくださる親子もいるほど人気の講座となっています。

中高生の来館は、テスト期間中や個人懇談中の利用が多くありました。一人で来館する子や友達同士連れだつて来館する子など様々ですが、皆学習室の利用やルールに馴染んでいるようです。息抜きに卓球や、館庭でバドミントンを楽しむ姿も見られ、児童館を上手に活用してくれています。

多文化共生の観点では統計は取っていないのですが、今年度は外国にルーツをもつ小中学生の利用の増加を感じます。友達同士よりきょうだいや家族

との来館が多く、日本語が不得意な子もおります。なるべく判りやすい言葉でじっくりと、児童館のルールや遊び方を伝えるようにしています。子育て支援室も同様に、外国にルーツを持つ親子の利用や相談が増えており、日本語の読み書きが不自由なママたちの孤立や情報交換の難しさを感じます。

また、今年度は、小学校の生活科授業の一コマとして児童館での工作体験を受け入れました。一クラスずつ引率の先生と来館した生徒たちに、児童館のルールを説明し、児童館で出来る工作を体験してもらいました。その日の夕方にさっそく自由来館で遊びに来てくれた子もおり、児童館を知ってもらう良いきっかけにもなりました。

最後に、広い館庭をもっていることが強みの篠岡児童館ですが、昔から提供している一輪車やスケーターなどの外遊び用の貸出遊具が古くなり、故障などが増えてきました。来年度は新たな遊具の購入検討など、外遊び環境の充実にも力を入れていきたいと考えています。

小牧児童館長

小牧児童館は「あそびを通しての仲間づくり」「楽しく過ごしホッとできる居場所づくり」を目標に取り組んできました。

子育て支援室において、支援員は母親に寄り添い第二の家庭として、子育てで頑張っている母親たちをいつでも迎えらるよう、暖かい雰囲気づくりを心がけています。また、最近は父親の姿も見受けられます。

「クラブ・広場・子育て講座の充実」は、年齢に応じたイングリッシュ、リトミック、運動あそびを行いました。また、支援室の「はじめの一步」では、近隣の歯科医院をお呼びして歯磨き指導を行ったり、理容師の方に来ていただいて夏場に向けての散髪の仕方を教えていただいたりしました。他にも、子育てで疲れている母親に向けてのリフレッシュ体操など、さまざまな外部講師を迎え行っています。ちぎったり、丸めたり、粘土感覚で行う2～3歳親子の「にっこりパン作り」や、牛乳パックでのイス作りは3回目の講座にも関わらず、毎回多くの参加者でにぎわいます。

イベントでは、夜のお化け屋敷を毎年楽しみに来てくださる家族が増えています。伝統行事の一つである、3月のお雛様のお菓子作り「おこしもの」も好評です。このようなイベント行事も、単館ならではの特色を生かしながら、工夫を凝らして実施しています。

「地域との連携」では、町内の夏まつりに参加し、ゲームを提供してお祭りに来た子どもたちに遊んでもらっています。ハロウィンイベントでは、幼児親子が仮装をし、近隣の保育園に出かけ交流を図っています。ご近所の方にも協力をお願いし、ゲームを盛り上げて頂きました。地域の方と一緒に行う3地区合同訓練や、区長、学校等関係者の方々をお呼びして児童館での子どもたちの様子をお話する、地域交流会では貴重なご意見を頂いています。これからもイベント等で、地域の方々と交流を図り、来館者にとって、居心地の良い児童館を目指していきたいと思えます。

小牧南児童館長

小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれております。平成31年、今年度の4月でちょうど10年を迎える施設で、先月19日に開館10周年記念式典が終わったところです。

ふらっとみなみ運営協議会との共催で七夕や節分、ひな祭りなど、多数のイベントを開催し、地域の様々な世代の方々と交流を深めながら、児童館の運営を行っています。本年度は10周年という事もあり、平成夏祭りや三世代交流会など、例年実施しているイベント等も10周年の冠を付けて、児童館も連動し、規模を拡大し実施しております。

また、本年度に力を入れた事業としまして、子育て支援室で新たに乳幼児を対象とした企画を行い、子育て支援活動を盛り上げました。0歳からの人形劇や、寝ころびアートや仮装を楽しんだハロウィン、手形スタンプを使ったクリスマス特別企画等、「子育てが大変である」という事だけでなく、大人も一緒に子どもと楽しめる内容を行うことで、「子どもと一緒に楽しい」と思える子育て支援に尽力しました。その甲斐あってか、本年度は0、1歳児の利用がかなり増加しており、ある一定の評価が得られている兆しが見えてきております。この兆しが確信となるよう、今後も尽力いたします。この他、外部企業、団体と連携し、食育や救命救急等、子育てに有益な講座なども実施し、ご好評を得ております。

さらに、本年度に実施しました新規事業としまして、児童館南側にある公園を利用し、自転車の補助輪外しの企画や水鉄砲を使った企画など、広いグラウンドのある立地を生かし、館内だけにとどまることのない事業も実施しました。来年度以降も引き続き、屋外を利用した新しい事業展開を試みて行きたいと思っております。

また、昨年10月に更新されました新しい児童館ガイドラインにある通り、「子どもが主体である」という事を鑑み、子どもにとって最善の利益を優先した運営を目指し、本年度より工作の制限撤去などに着手しています。

誰もが気軽に「ふらっと」立ち寄り、すべての方々が「ほっ」と一息つける居心地の良い空間であることはもちろんですが、当児童館の目標でもある「全ては子どもたちの為に」という想いが職員だけでなく、保護者や地域の方々に広がっていく事も目標に活動を行っていきたく思います。

北里児童館長

昨年の課題は中学生の居場所として、スペースがない北里児童館の中でどのように工夫をしていくかでした。直接中学生の声を聞こうと、「みんなにとって児童館ってどんなところ?」「何がしたい?」と尋ねてみると、「先生はどうしたいの?」と反対に尋ねられました。職員の気持ちを話す事も大切だと気付かされました。「困った時にも来て欲しい」「児童館で活躍してほしい」「人の為に活躍できるみんなになって欲しい」と言うと、「僕でもなれるかな?」「友だちも呼んでくる」と、ボランティアの話が変わっていききました。中学生をリーダーに、個々の目標に合わせてみんなで成長していくこどもプランナーとして、新しい居場所になっています。

支援室では「小学生の頃に北里児童館に遊びに来ていました」というママが増えてきました。長く務めている職員にとっては、まるで母、子の再会のように、連れて来られた乳児は孫のようです。「実家に帰ってきたみたい」と微笑ましく過ごして頂いています。北里児童館の支援室は「実家」のように安心して来て頂ける様に心掛けています。一人で遊びに来ているママにも愚痴や相談を伺いながら、実家のお母さんが夕飯の1品を待たせてあげるように、手あそびや手づくりおもちゃのヒントを持ち帰って頂いています。

支援室では毎月26日に誕生会をしています。産まれる時のエピソードを話しながら涙ぐまれる方もあります。Peek-a-boo という乳児の英語教室はキャンセル待ちが出るくらい人気です。

イクメンのパパの要望に応え、男子トイレにもオムツ替えキープを設置しました。トイレの照明、クロスの貼替と館内は修繕でずいぶん変わり、「きれいになった」と、喜んで頂いています。

父親の育児参加が増えてきていますが、実際には親子の関わり方が苦手、わからないとの声もあります。児童館ではボードゲームデーを作り、関わりのかっかけになるお手伝いをしています。父親がゲームの説明をし、子どもに向き合って遊ぶ姿は微笑ましく、子どもも尊敬のまなざしがあります。子どもがゲームに勝った時には認める声掛けがあり、アナログのゲームで遊ぶ楽しさを味わって頂いています。

児童館での「毎月の工作」と「毎月の遊び」は職員が企画しています。常に新しいものと思い進んできましたが、子どもたちが「もう一度やりたい」と興味を持つことは持続にも繋がるので、希望に添って再提供に務めていきました。

毎週木曜日は小学校の帰宅時間が早いので、それに合わせて「レクキッズ」を行っています。異年齢の関わりを目的に実施しています。「自分だけが楽しいではなくみんなで楽しい」を考えるように促し、子どもたちでルールを考えて楽しんでいます。子どもたち自身が考えだしたルールなので文句を言いたすこともなく、「しょうがないな」と許す気持ちや、相手を思いやる気持ちも育ちつつあります。ルールのある遊びを通して異年齢の関わりに重点を置いた結果、低学年を思いやる気持ちが育ってきています。

地域の小学校の社会見学で2年生が来館しました。北里市民センター内と児童館を見学しました。いつも来館している子どもは児童館のことを自慢げに友達に話していたようです。

児童館前で朝、登校を困っている子どもと出会うことがあります。「宿題ができていないから…」等理由は様々ですが、話を聞いている間に小学校へ連絡させて頂き、先生に迎えに来ていただいています。児童館が子どもたちの拠り所だとしたら嬉しいです。今後も地域の小中学校と連携を取らせて頂き、北里地区地域協議会設立の会議にも参加させて頂き、児童館としてお手伝いをさせて頂ければと思っています。

併設の北里市民センターの施設を利用させていただき、クラブ活動、行事など盛大に開催しています。避難訓練、消防訓練も一緒にさせて頂いており、安全に対する意識を高めています。

父母クラブでは親同士の交流を目的に、今年度は「ヨガ」と「ママ達のティーパーティー」をしました。ママやママのお友達が講師といったように仲間が繋がり、楽しい時間が過ごせました。

今年度は初めて指定管理者小学館集英社プロダクションの企画で、「おはなし玉手箱」を開催しました。プロの声優をお呼びして、地域の方に喜んで頂きました。

今後も居場所として、多くの方に来館頂くために周知をどのように進めていくか、子どもたちと話し合う時間をどのように持つかが課題です。これからも地域の方とも関わらせて頂き、頑張っていきます。

コミュニティセンターとの複合施設として、運営協議会の方々や地域の方々にご協力していただきながら取り組んでおります。西部児童館では、笑顔になれる場所を目指し、笑顔になって帰っていただけるよう心がけています。

子育て支援では、夏休みの7月より支援室を今までの3倍近く広くし、休みの間も気にせず、楽しんでいただけるようにしました。0ヶ月～ハイハイ期までが対象のひよこ広場と、1歳前後に参加できるちびっこ広場がありますが、その間の子が参加できる広場がなかったので、今年度新たにらっこ広場を作りました。広い遊戯室でのびのびハイハイできたり、体を動かしたり、楽しんでいただいております。

取り組みとして、参加型壁面の足形アートや、誕生会でのパネルシアター、寸劇、紙芝居、職員による出し物、特にハーフバースデーではお昼寝アートも楽しんでいただいております。

今年度は、イベントとして未就園児が参加しにくいものが多かったので、11月に支援祭りを行いました。初めての開催でしたが、来館者も多く親子で楽しんでいただけましたので、来年度も開催したいと思います。

「遊びを通じた子どもの育成」では、季節を感じられるような制作を楽しんでもらいました。対象年齢が幅広いため、年齢に応じて用意をするようにしています。地域の介護施設や保育園などで牛乳パックをいただき、職員で新しい工作を常に考えています。出来上がった時の子どもたちの笑顔を楽しみに、これからも日々楽しい工作を用意していきたいです。

クラブ活動は昨年度と大きく変わらず楽しんでいただきました。来年度は要望もあり、手芸を中心とする「ちくちくハウスクラブ」、子どもでも簡単にできるおやつ作りの「プチパティシエクラブ」を新設します。

今年度初めて、大型段ボール迷路を三世代交流会で楽しんでいただきました。運営協議会の方が地域の会社からもらってきていただいたダンボールで、遊戯室いっぱいの迷路ができました。今後も続けていきたいです。

今年度のクリスマス会は、職員と運営協議会の会長・副会長にサンタになってもらいながら、寸劇をしました。来館者にも喜んでもらい楽しいイベントになりました。

西部には芝生広場がありますので、クラブやイベント時に多く利用しています。畑もありますので、じゃがいもほりやさつまいもの苗の植え付け、収穫を楽しんでもらっています。また、グリーンカーテンとして、千成ひょうたんやぼっちゃんかぼちゃんなどを作り、収穫後、アートとして干支製作などを楽しんでもらっています。

今年度初めての企画で、小学館集英社プロダクションの小レククラブの方に「あそびの宝箱」を開催してもらいました、初めての企画で心配しましたが200名の方の参加でにぎわいました。マジック、手遊びなど参加型で楽しんでいただきました。

子どもプランナーの子どもたちには1年を通してイベントの企画や、お手伝いなど、全てのイベントに参加してもらい、子どもたちにボランティア活動の楽しさを知ってもらいました。20名以上の登録で、これからもたくさん子どもたちにボランティアの素晴らしさを知っていただけるよう努力し

ていきたいです。

「地域との連携」では、運営委員会との合同イベントをたくさん開催できました。今年度は今まで以上に協力をいただき、三世代交流会の大型段ボール迷路や、節分においては昨年度まで児童館内で楽しんでいただきましたが、今年度はエントランスで行いました。階段の踊り場から会長、副会長、所長に豆まきをお願いし、子どもプランナーやコミュニティの職員、児童館の職員が鬼になって節分行事を行いました。たくさんの方に参加してもらい、楽しく終えることができ、来年度もこういった形のイベントにしていきたいと思います。また、企業のヤクルト、カゴメの方に食育の指導をしていただいたり、近隣の歯科医院の方に歯磨き指導をしていただいたりしました。地域の方には、児童館を知って頂けるように、ブログや館だよりで情報を発信しています。また、小学校・中学校の総合学習の受け入れや、ジュニアボランティアによるイベント協力、地域貢献活動をしていただいております。

大城児童館長

大城児童館は平成30年度、指定管理が始まって10年目の運営をやらせていただいています。今年度も「地域みんなで、楽しさのシェアリング」を目標に、5つの理念を元に展開してきました。

「地域ぐるみでの運営」では地域運営協議会を設置し、区長さんをはじめ地域有識者、学校関係者ともに、地域課題のことや児童館の現状の報告をしています。今年度利用者数が10%ほど減ってしまっていて、理由としては近隣市町の子育て支援施設の充実や、子育て世代包括支援センターの開設、また、桃花台地区自体の若い世代の減少などが影響しているかと考えられますが、子育ての充実した小牧市にもっと来てもらおうと、地域の方と協力して考えていきたいと思っています。

そのような状況の中、外国籍の方の来館がとても多くなってきています。小学校も、300人中50人ほどが外国籍の子であるそうです。どうしてもコミュニケーションが難しい部分がありますが、小学校入学前に児童館へ遊びに来て、周りの方と交流してほしいという思いがあり、地域連携としての課題が見えてきているところです。

2番目の「多世代での子育て支援」についてお話させていただきます。支援員を常時2名配置してから時間も経ち、かなり保護者の方との信頼関係もできてきたと感じています。祖父母での来館もとても多く、多世代で子育てしているなどということを実感します。皆さん色々な悩みを抱えていらっしゃるのです、児童館として少しでもバックアップしていけたらと思っています。

英語に関する取組みを、地域の方にも講師をお願いしながら、今年度は「イングリッシュシャワー」という企画を新しく始めました。「英語であそぼ」、「英語でワンダーランド」、「ワールドミュージック」という企画も入れながら、英語学習を幼児の頃から児童館で行うことができるようにしています。

「中高生の居場所」としての児童館も継続的に行っています。学校との関係も大事にしながら、中学校の吹奏楽部の子たちにきてもらって活動をしていただいています。

「多文化共生」の中で継続的なのは母語教育で、毎週ポルトガル教室を夜開催しています。先ほど申し上げましたように多文化共生の充実を図ろうと

思い、来年度新しい取組みも企画しています。

「社会教育の展開」としましては、色んな行事で地域の方に参加していただくとともに、地域の方にも楽しんでいただこうと、皆で楽しめるおもちゃつきやミュージックフェスなどを行い、関わりを強くしています。10月にはアートイベントに参加したり、12月にはクリスマスコンサートを行ったりして、色んな世代の方に関わっていただきました。これからも地域で楽しさを分かち合っていきたいと思います。

センター長

(資料2)

続きまして、(2)平成30年度児童館・子育て支援室利用状況について報告します。表の上段は30年度の12月までの数字、下段は29年度1年間の数字となっています。また、左側の「個人任意利用者数」は来館された人数で、右側の「集団指導等利用者数」はクラブ講座に参加された人数、または工作や手芸など、職員が関わって指導した人数です。

「個人任意利用者数」は前年度に比べて増減はそれぞれの児童館で異なりますが、全館合計で29年度は月平均24639人、30年度は29226人になりまして、全体として増加傾向にあります。

次に支援室の利用状況について説明します。同じように、表の上段は30年度の12月までの数字、下段は29年度の1年間の数字となっています。29年度は月平均12154人、30年度は13747人で、こちらも増加傾向にあります。支援室でゆったりと過ごす親子や、職員に自分の思いを聞いて欲しくて来館されるリピータの方を見ていると、親子で安心して遊べる場、また、お母さん方の支援の場として、支援室の役割は大きいと感じています。

司会

ただ今、(1)平成30年度児童館現状報告について(2)平成30年度児童館・子育て支援室利用状況について報告がありました。これらについて、ご質問等はありませんか？

司会

特にないようですので、続きまして、(3)児童館利用者アンケートについて、事務局より報告を致します。

担当

(資料3)

指定管理者制度を導入している児童館においては、年2回のモニタリングを義務付けておりますが、全館共通様式を使用したアンケートによるモニタリングを年1回実施することで、各館利用者の満足度を比較することができ、児童館運営の質の向上に努めることを目的に実施しております。

アンケートは、児童館を利用する児童及び保護者を対象として、小学生、中学生以上、保護者の区分に分けて、平成30年10月22日から11月21日までの期間で、市内全8館で実施いたしました。

小学生を対象にした集計結果を資料の2ページ、中学生以上を3ページ、保護者対象を4、5ページに資料としてお付けしております。小学生420人、中学生以上325人、保護者463人から回答をいただきました。

2ページの小学生のアンケートでは昨年と比べて大きくは変わらず、質問1の「児童館は楽しいですか？」では9割以上のお子さんから楽しいという回答を頂きました。自由記述の回答でも、「先生が優しい」など、よい意見を多くいただきました。

3ページの中学生以上のアンケートでも、約8割の方から「児童館へ行くことは楽しい」と回答を頂きました。「どんなときに児童館を利用しますか」の自由記述の回答からは、中学生以上の子どもたちからは卓球が人気であることが伺えました。また、中学生以上の子どもたちは、テスト勉強や宿題で利用する機会が多いようです。

4ページの保護者用のアンケートでも概ね満足していただいておりますが、質問6の「児童館は衛生に配慮されていますか？」で「いいえ」と回答した方の理由として、大人の方の裸足が気になるというお声や、おもちゃの衛生面を心配するお声がありました。

5ページの、「児童館を利用して思うことを記入してください。」という質問に対しては、非常に多くの自由意見をいただきました。児童館に対する良い意見が多く、「あなたにとって児童館はどんな場所ですか？」と重なる意見が多いことや、アンケート結果の数字からも児童館に対する高い満足度がうかがえるため、こちらの「児童館を利用して思うこと」には、マイナスの意見や要望のみを載せています。

これらの意見を今後の参考にし、取り入れられるものは積極的に取り入れ、少しでも利用しやすい児童センター・児童館であれるようにしていきたいと思っております。

司会

ただ今、(3)児童館利用者アンケートについて報告がありました。これについて何かご意見・ご質問等がありますでしょうか。

副委員長

3ページの、西部児童館の「今日来ている児童館以外に行ったことのある児童館」が0となっています。

担当

回答がありませんでした。

司会

その他特にないようですので、議事に移らせていただきます。議事の進行は、永井委員長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

委員長

それでは、議事に移ります。(1)平成31年度児童館活動方針・活動目標(案)について、事務局からお願いします。

センター長	<p>(資料4)</p> <p>平成30年10月1日に児童館ガイドラインが改訂されました。昨今の児童福祉法改正や、子どもの福祉的な課題への対応、子育て支援に対する児童館が持つ機能への期待を踏まえたものであります。</p> <p>改訂された内容に児童福祉施設としての役割に基づいて、児童館の施設特性を新たに示されています。①拠点性。児童館は、地域における子どものための拠点（館）である。②多機能性。児童館は、子どもが自由に時間を過ごし遊ぶ中で、子どものあらゆる課題に直接関わることができる。③地域性。児童館では、地域の人々に見守られた安心・安全な環境のもとで自ら成長していくことができ、館内のみならず子どもの発達に応じて地域全体へ活動を広げていくことができる。この3点に整理されました。その改訂されたガイドラインの内容が、この活動方針や活動目標に盛り込まれていると思います。ガイドラインが改訂された今、児童館、児童厚生員としての役割を理解し、地域に親しまれる児童館を目指していきたいと思います。</p> <p>次に平成31年度、小牧市子ども連絡協議会との連携事業ですが、こまキッズフェスタを平成31年11月9日に勤労センターで行う予定です。</p>
委員長	<p>ただ今説明のあったことについて、委員の皆様からご質問やご意見はありますでしょうか。</p> <p>特に意見もないようですので、(1)平成31年度児童館活動方針・活動目標(案)を承認いたします。</p> <p>続きまして、(2)平成31年度児童館クラブ活動・行事計画(案)に移ります。事務局から提案をお願いします。</p>
センター長	<p>クラブでの活動は、共通の興味関心をもった子どもたちが集まって活動するものです。多少の変更はありますが、30年度と大きくは変わっていません。</p> <p>続きまして、行事につきましても、30年度と大きく変わっていません。複合施設の中にある児童館は地域の方々との取り組みを大切に、外国籍が多地域では多文化共生に力を入れています。</p> <p>各館、地域性を生かしながら、季節の行事、伝統行事も大切に、利用者に喜んでいただけるように工夫を凝らしています。</p>
委員長	<p>それでは、ただ今説明のあったことについて、委員の皆様からご質問やご意見はありますでしょうか。</p>
委員長	<p>地域の特性を生かした活動をされていると感心しました。また、子どもたちの主体性を大切にして、探究できるような活動を保証している点も、大変素晴らしいと思いました。</p> <p>最近私が興味をもっている活動についてお話したいと思います。80年前にイタリアで起きた「レッジョ・エミリア」という幼児教育活動です。第二次世界大戦でナチスが撤退した後、それまで幼児教育を担ってきたカトリック教会には任せておけないと、戦後、ナチスが残っていた戦車や鉄くずなどを売り、そのお金で自分たちの学校をつくり、民衆の手づくりではじまった</p>

教育活動です。その学校にアーティストを招聘し、アート活動を中心にした探求的な学びを行っていくというものです。昨年10月の「発達」という雑誌の中で、幼児教育の第一人者である秋田喜代美さんが、「レッジョ・エミリア」について書かれました。地域の住民が一緒になって子どもたちを育てていく中で、アート活動を中心として「新しい世界、新しい自分」に出会う場にすることを大切にしてきました。現在各児童館で行っている英語活動や、リトミックなどがそれに当たるのではないかと思います。それらの活動をもう少し先へ進めてみるのはどうでしょうか。例えば、アートに関するスタッフを招聘して、年間を通したプロジェクト活動として行事を行っていくと、児童館としての意味合いもまた変わってくるのではないかと思います。一度「レッジョ・エミリア」を館長会などで勉強されて、そういった方向性を持たれてはどうかと思いましたので、少し紹介させていただきました。

教育活動です。その学校にアーティストを招聘し、アート活動を中心にした探求的な学びを行っていくというものです。昨年10月の「発達」という雑誌の中で、幼児教育の第一人者である秋田喜代美さんが、「レッジョ・エミリア」について書かれました。地域の住民が一緒になって子どもたちを育てていく中で、アート活動を中心として「新しい世界、新しい自分」に出会う場にすることを大切にしてきました。現在各児童館で行っている英語活動や、リトミックなどがそれに当たるのではないかと思います。それらの活動をもう少し先へ進めてみるのはどうでしょうか。例えば、アートに関するスタッフを招聘して、年間を通したプロジェクト活動として行事を行っていくと、児童館としての意味合いもまた変わってくるのではないかと思います。一度「レッジョ・エミリア」を館長会などで勉強されて、そういった方向性を持たれてはどうかと思いましたので、少し紹介させていただきました。

委員長

その他にご意見などございますか。

それでは、(2)平成31年度児童館クラブ活動・行事計画(案)については、承認されました。

続いて、(3)平成31年度児童館の子育て支援(案)について、事務局からお願いします。

センター長

(資料6)

各館、1歳前後から就園までの子どもが対象のちびっこ広場をはじめ、各種教室があります。幼稚園や保育園など集団に入る前の乳幼児親子が参加し、子どもの社会性や発達を促したり、保護者同士が交流の場になったりもしています。こうした教室への参加を呼びかけ、親子で過ごすことで、子育ての楽しさが味わえるようにしています。また、親子の関係性を見ながら、育児不安や育児疲れなどを早期に発見し、困り感が小さいうちに、支援できるようにします。また、利用者にとって、相談しやすい場であるように温かい雰囲気づくりに努めていきます。

委員長

ありがとうございました。ここで、委員の方々に一言ずつお願いしたいと思います。

来治委員	<p>親に気持ちがある方は児童館へ行かれると思いますが、そうでない家庭の支援をどうするかということだと思います。この間も虐待の事件がありました。近所の方でお子さんがいらっしゃるのに最近全然顔を見ないな、と思ったときに、例えばアンケート用紙などを設置して気軽に気づいた点を言える場があるといいなと思いますが、どうでしょうか。</p>
委員長	<p>児童館でそのような機会を与えているところはありますか。</p>
センター長	<p>全館そうですが、まずは支援室やフロアで関わることを大事にしています。来年度、新事業としてアニバーサリー事業を計画しています。1歳の誕生日を迎える子どもたちにアンケート用紙が届き、それを児童センターや児童館へ持ってきていただくと、引き換えに本とタオルをプレゼントするというものです。今おっしゃられたように、来館されない家庭への支援が難しいところだと思いますので、これが来館のきっかけになればと思っています。アンケートは、それを元に、ケアプランの見直しや、支援が必要な家庭のサインを拾っていくことができるような内容となっています。</p>
増田委員	<p>今日の報告を受けて、すごく充実した事業をしていただいているなと感じました。現在、私が主任児童委員として主にやっている仕事で、ジュニア奉仕団の活動があるのですが、これからも窓口を開いていただいて、子どもたちを育てていただければなと思います。</p>
小島委員	<p>孫が篠岡児童館へ遊びに行くので、私も時々お邪魔しますが、どこで何をしているのかわかりづらいです。迎えに行くときもどこにいるのかわからないので、わかりやすくしていただけるとありがたいです。</p>
伊藤委員	<p>月1回の児童館だよりを見させていただいているのに加え、本日の報告を受けて、それぞれの地域で特色のある行事を行っていただいているなと感じました。親も子も楽しんでいると伝わってきます。補導員をしているので夕方パトロールに行くのですが、この間来館したとき、北里児童館のままごとコーナーが広がっていました。広げたことによって幅広い年齢のお子さんが楽しめるようになって人気が出たということを知り、季節や時期で工夫されているなと感じました。その時に、高校生の子が、学校で出会った子を連れて来館したという話も聞きました。「中学生が来館しやすい雰囲気作り」とありますが、その通りに居心地が良い、居場所作りができているとよくわかりました。また、訪問させていただきたいと思います。</p>
東谷委員	<p>子どもたちが充実した時間を過ごしているなと感じました。子どもが笑顔で帰ってくるのを見るととてもほっとします。ありがとうございます。</p>
児島委員	<p>子どもたちにとって児童館は楽しんで利用できる場所であり、親や担任には言えないことも、児童館の先生になら話せるという子も多いので、児童館の先生が心のよりどころになっているのではないかなと思います。 小牧市は児童館が充実していますので、小学生を持つ親としては、本当に</p>

ありがたいなと思っています。先ほど虐待の話もでしたが、学校には行けないけれど児童館になら行けるという子どもたちの心のケアを、児童館の先生たちがしてくださっているという話もお聞きしますので、これからは学校と連携をとって、続けてくださるとよいです。よろしくお願いします。

中川委員

小学校の立場で最近感じているのは、親御さんたちへの助言・指導という部分が私たちの業務の中で多くなっているということです。不登校の傾向のあるお子さんというのは、ほとんどが親子関係が崩れていたり、よく「連鎖」という話がありますが、お母さん自身が自分の親御さんと上手に関わって来られなかったり、ということが多々あります。そんな中で私たちも「親を育てていく」ということが役目の一つになってきていて、悩みながら対応しているところです。児童館も児童のための場所ではありますが、今日の言葉の中で、「親御さんたちの困り感の小さい時から相談してもらえるように心がけている」ということが、すごくいいことだなと思いました。本当に心配な家庭というのは、行事にも参加されなかったり、懇談会も欠席されたりと、なかなか会う機会がありません。そういった状況の中で、「困り感」が小さいときに救っていくことはすごく大事なことだと思っているので、小学校と児童館はそういった意味で似ているところがあるなと思って聞かせていただきました。児童館という子どものための施設ではありますが、引き続き「親支援」というところも一つの柱にしていただけるとありがたいなと思います。なじめない子どもというのは自己肯定感が低く、誰かに認めてもらったり、声をかけてもらったりすることを欲していますので、児童館でも、よろしくお願いします。

副委員長

親子関係や親の姿勢に配慮していただいて、先生たちが関わってやったださっているところを見て、本当にすばらしい場だと思いました。また、児童館から他の専門機関に繋いだりすることもあるということで、児童館の役割は本当に大きいものがあると感じます。

また、地域に根ざした児童館ということで、人材の掘り起こしなどにも力を入れていただいて、またそういった力を児童館で発揮する企画も多く取り入れていただいているなとわかりました。

今の親御さんのニーズにあった企画、例えばハーフバースデーなどを、児童館というみんなで認めてもらえる場で企画をしていただいている、続けてもらえると良いなと思います。

質問ですが、3人乗り自転車は児童館で展示されていますが、普及効果はどうですか。

大城児童館長

何名かの方が試乗されて、実際に購入された方もいました。桃花台は坂が多い地域ですが、電動アシスト付きでスイスイ上っていきますので、お母さん方も喜んでみえたと思います。

委員長

委員の皆様ありがとうございました。

(3)平成31年度児童館の子育て支援(案)については承認いただけたということでよろしいでしょうか。

こども政策課係
長

では続きまして、(4) (仮称) こども未来館開館時間 (案) に移りたい
と思います。4 (1) (仮称) こども未来館整備基本設計・実施設計につい
て と合わせて、事務局からお願いします。

(資料7、8)

次第には「(仮称) こども未来館開館時間 (案) について」とありますが、
委員の皆さんにイメージしてもらいやすいように、「4 その他」にある「(仮
称) こども未来館整備基本設計・実施設計について」を説明してから、開館
時間についてご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

資料8をご覧ください。(仮称) こども未来館の基本設計・実施設計につ
いては昨年10月に設計業務が完了しましたので、簡単ではありますが、設
計のあらましを報告させていただきます。

内容については前回報告させていただいた内容と大きく変更はありません。
2階は多世代が利用できるみんなの交流広場や音楽室、ダンスパフォー
マンス室を整備します。3階は主に小学生が利用するエリアでアスレチック
遊具、ふわふわ床の他、プログラミング室、工作室、理科体験室を整備しま
す。またイベントスペースを設け、平日は自由に遊んだり、土日は職業体験
ができるイベントを開催したり、夕方は中高生の自主学習スペースとしての
活用を考えています。4階は乳幼児親子が利用するエリアで、親子ボルダリ
ング、マット遊び、ボールプール、ごっこ遊び、知育遊具を整備します。

施設の特徴としては、2階から4階までを貫く吹き抜けにこども未来館の
シンボルとなるネット遊具を設置するほか、3階にはデジタルコンテンツと
して、自然や科学などについて情報通信技術を用いた映像や音により、「遊
び」を通じて楽しく学ぶことができるコンテンツの導入を考えています。な
お、このデジタルコンテンツの内容の詳細については、今後検討してまいり
ます。

以上で設計のあらましの説明を終わります。続いて、開館時間の説明に移
りたいと思いますので、資料7をご覧ください。

開館時間については、前回の運営委員会において、皆様の意見をいただき
まして、その後事務局で検討してまいりました。9月に開設しました、子育て
世代包括支援センターは9時30分の開館となっておりますが、こども未
来館には多くの来場者が見込まれ、動線を確保する必要がありますので、1、
2階の商業施設の営業開始時間に合わせ、10時から開館とします。

閉館時間につきましては、前回の運営委員会でいただいた意見を踏まえ、
基本的には、他の児童館と同じく17時30分までとします。ただし、施設
の利用促進を図るため、利用者によって時間延長を行います。未就学児は必
ず保護者同伴とし、19時00分まで。小学生だけの利用は17時30分ま
でとしますが、保護者同伴の場合は19時00分までとし、中学生は19時0
0分、高校生は21時00分までとします。

また、フロアやエリアについても利用目的などから開放時間を設定します。
4階の乳幼児親子エリアは17時30分まで開放し、3階の小学生エリアは
19時00分まで開放します。中高生の利用が見込まれるイベントスペース、
工作室、理科体験室は21時00分まで開放します。2階については店舗が
併設されていることから店舗の閉店時間に合わせ20時00分までとします

	<p>が、音楽室、ダンスパフォーマンス室だけは21時00分まで利用できるようにします。</p> <p>17時30分の閉館後に延長して利用する方法については、いったん全員退場してもらい、改めて学年や親子連れであるかどうかを確認して再入場してもらうのが現実的ではないかと思いますが、今後運営事業者が決まりましたら詳細を詰めてまいりたいと考えています。</p>
委員長	<p>ただ今(4)(仮称)こども未来館開館時間(案)と、4その他(1)(仮称)こども未来館整備基本設計・実施設計について説明がありました。何かご意見などありますでしょうか。</p>
増田委員	<p>親子連れであるかどうかを確認して再入場という形を取るということですが、例えば小学生と中学生の兄弟で来た場合、小学生に対して中学生は保護者扱いにならないということによいですか。</p>
事務局	<p>はい、保護者扱いにはなりません。</p>
委員長	<p>17時30分というのは前回の運営委員会で承認を得た時間ですので、良いと思いますが、それ以外のところでご意見ありますでしょうか。</p>
委員長	<p>それでは、特にないようですので、(4)(仮称)こども未来館開館時間(案)についてはこれで承認したいと思います。</p> <p>以上で本日の議題は全て終了させていただきます。事務局にお返しします。</p>
司会	<p>委員の皆様、速やかな議事の進行にご協力頂きありがとうございました。これもちまして、平成30年度第2回小牧市児童館運営委員会を終了させていただきます。</p>